

第1学年 道徳科学習指導案

令和元年10月9日（水）5校時

- 1 主題名 自分らしい生き方 内容項目〔A 向上心、個性の伸長〕
- 2 ねらい 主人公が出会った人々の生き方について考える活動を通して、充実した生き方について考えを深め、自身のよさを伸ばしていこうとする態度を育てる。
- 教材名 「きらめけ ぼくだけの音色 ―ピアニスト 辻井伸行―」
(出典 彩の国の道徳(中学校)「自分をみつめて」 埼玉県教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

ここでは「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。」がねらいである。個性は、その人固有の持ち味とも呼べるものであり、「個性を伸ばす」とは、自身の持ち味をよりよい方向へと伸ばし、より輝かせることである。自己を見つめることで自らの個性に気付くとともに、その個性に磨きをかけ、よりよい人格をめざそうと願って努力することは生きていくうえで重要である。

中学生のこの時期は、新しい交友関係や体験の広がりにもなるとともに他者と自分を比較し、その中で劣等感に陥ったり、現実の自分と理想とする自分の違いに苦しみ、葛藤する時期である。様々な価値観に溢れ、時に明確な結果を出すことを求められる現代社会において迷い悩む中学生に、将来の展望や自身の可能性について考えを深め、自身の個性を伸ばさせていこうとする態度を育てたい。

(2) 生徒のこれまでの学習状況及び実態について

小学校での道徳の学習の中で、自分の特徴について考え、長所を伸ばすことについて学んできている。中学校の道徳の時間では「トマトとメロン」という教材でそれぞれの違いのよさについて学んできた。また、本校の学校目標「志に生きる」の活動の一つとして、1学期に「立志の会」という時間を設け、その中で自分の生き方について見つめてきた。1学年の学年目標として「己を知り、己を生かす」を設定しており、毎日の生活記録ノートやテスト前の計画表作り、見直しを通して自身を分析する機会を設けてきた。学級の活動においても、頑張っている生徒の活躍や係の活動について担任がコメントし、その活躍を教室の見えるところに掲示する等、生徒の努力や日々の活動を肯定的に受け止め発信してきている。しかし、埼玉県学力・学習状況調査の結果では、「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対し、「思わない、どちらかといえば思わない」と答えた生徒が25.8%いるなど、自己の評価については低く評価しがちな生徒もいる。将来の夢や目標をもっていますかという質問でも「もっていない、どちらかといえばもっていない」と答えた生徒の割合は18.5%となっており、「将来の夢」

を尋ねても具体的なものを思い描けない生徒がいることがわかる。Hyper - QUの結果からも不安傾向の強い生徒や学級内で認められていないと感じているなど、自分に自信がもてない生徒が複数いる。今回の学習を通して、今後のスキー林間学校や三送会などの学校行事での活動への意欲や、積極的に自身を活かし進路について前向きに考えるための力へとつなげていく。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は盲目のピアニスト辻井伸行さんの母親である辻井いつ子さんの視点を通して、伸行さんの生き方を描いている。待望の我が子の障がいがあったとき、いつ子さんは大きなショックを受け、深い絶望を感じた。しかし、伸行さん同様視力に障がいがありながらその障がいをマイナスに捉えず何事にもチャレンジして生きている福沢美和さんと出会い、「障がい者だから障がい者らしく」ではなく、「伸行だから伸行らしく成長してほしい」と願うようになる。障がいや「できないこと」とらわれていたときは見えなかった伸行さんの「らしさ」に目を向け、前向きに挑戦していこうと考え方を変えた場面に注目し、人が成長し生きていく上で自身のよさに気付き伸ばすことが大きな意味をもつことを考えさせたい。

そのために、本時の話合いでは、以下の3つの設問を中心にねらいに迫っていく。

- ①いつ子さんが考え方を変えることとなった福沢さんの生き方とはどのような生き方か考え、充実した生き方と個性の伸長が大きく関わっていくことに気付かせる。
- ②「伸行らしい生き方」について考え、充実した生き方を具体的に思い描く。
- ③「伸行らしい生き方」から思い描いた生き方を自身に置き換え、自分の思う自分らしい生き方を考えさせる。

4 学習指導過程

段階	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ◇評価の視点
導入	1 「充実した人生とはどんな人生なのか」を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽な人生 ・ 友達がたくさんいる人生 ・ お金をたくさん稼げる人生 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にアンケートを行い、紹介する形で共有する。 ・ ピアノ演奏の映像を流し、辻井伸行さんを紹介する。
展開	2 教材を読んで話し合う。 ・ いつ子さんが感じた絶望感について共有する。 (1) 福沢さんの生き方はいつ子さんに大きな影響を与えたが、それは具体的にどのような生き方、考え方なのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ マイナスに考えても仕方ない。 ・ 障がいをプラスに捉えよう。 ・ せっかくなんだから、毎日楽しく明るく生きたほうがいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材配布前にあらすじを話し、登場人物や要点を掴ませる。 ・ 教材を配布し、範読する。 ・ ワークシートに記入することで、自分の考えを明確にさせる。 ・ 小グループで話し合い、意

	<p>(2) いつ子さんの考える「伸行らしい生き方」とはどのような生き方だろうか。</p> <p>(3) 福沢さん、いつ子さん、伸行さんの生き方や考え方から、みなさんが考えるみなさんの「自分らしい生き方」とはどのようなものか、今後どうしていきたいか考えてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいがあるからってなにもチャレンジしないなんてつまらない。 ・好きな音楽ができる生き方 ・障がいにとらわれて何もできないのではなく、明るく過ごす ・自分にできることを探してどんどん挑戦するような生き方 ・サッカーを続けたい。そのために練習に欠かさず出るようにする。 ・人に優しくしていきたい。だから、クラスで困っている友達がいたら助けてあげたい。 ・趣味に熱中して生きていきたい。 	<p>見交換をして考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文中にある言葉を引用するようであれば、そこからさらに具体的な考えを探るように言葉かけをする。 <p>◇様々な登場人物の視点に立つことで考えを深めている。</p> <p>◇いつ子さんの心情の変化から、福沢さんの「充実した生き方」について考えている。また、他の人の意見をもとに、考えを広め深めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を発表させ、他の人の考えも知らせる。 ・ワークシートに自分の考えを記入させる。 ・十分に時間をとって、深く考える時間をとる。場合によっては発表させ、共感した意見等をメモさせる。 <p>◇学んだこと、知ったことを自分自身に照らし合わせ、自身の可能性について考えを広げ、深めている。</p>
終末	3 伸行さんのインタビュー映像を見る。		<ul style="list-style-type: none"> ・余韻を残すように多くを語らず見せる。

5 他の教育活動等との関連

事前指導	【学校行事】 立志の会の時間に自分の生き方について考え、掲示物を作成する。 【帰りの会】 充実した生き方についてアンケートを行う。
道徳科	教材名「きらめけ ぼくだけの音色 —ピアニスト 辻井伸行—」
事後指導	【帰りの会】 授業を受けて考えたこと、感想等を紹介する。 【学活】 自分や友人の「良いところ探し」を行い、キャリア教育につなげていく。
家庭との連携	本時の内容や感想等をまとめた通信を配布し、家庭でも個性の伸長や生徒自身の「良いところ」について考える時間を作ってもらおう。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・発問(1)での場面や、補助発問でもあるいつ子さんの絶望感・「見えない」ということについて考える場面で、いつ子さんや伸行さん、福沢さんの複数の視点に立って充実した生き方について考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・充実した生き方をするため、自分らしさについて深く考え自己のよさを探ろうとしている。

7 板書計画

